

## 右肩上がりの幸福感



Photo: Cees van Roeden <http://www.visitdenmark.com/>

### 成長する街のパワー

先日、万博開催で活気づく上海を訪問した。上海万博の入場料は160元(約2,080円、1元=13円換算)と現地の貨幣価値を考えれば高額だが、中国国内各地から観光バスが続々と到着していた。実際に会場でも来訪者はほとんどが中国人といった印象で、外国人訪問者は1割にも満たない印象だ。会場内はさほど混雑していないのだが、各パビリオンに行ってみると、そこは長蛇の列である。日本館はなかでも人気らしく、4時間待ち、8時間待ちなどと表示されているが、恐らくは、東京ディズニーランド並みの正確さの待ち時間表示、というものではないと思う。

街のパワーは、その街に行く、その街に暮らす、その街で働く人々によってつくり上げられる。ニューヨークなどは、街を歩くだけでも人々のパワーを感じ

る場所のひとつだろう。上海は先頭を切って発展を遂げている、中国の中でも特別な場所である。今の上海には勢いを感じる。日本の高度成長期も、きっとこんなエネルギーがそここに溢れていたのだろう。現状がいくら不完全でも、人々の幸せ度にはあまり関係はない。「今日より明日がよくなる」と思えるなら、人は幸福なのだ。そしてまた、逆も然り。「今日より明日は悪くなる」という下り坂では、いくら高い地点にいたとしても、けっして幸福感は感じられない。

### 国民に幸福感をもたらすものは？

先月紹介した「World Database of Happiness」で2位のデンマークについて、講義ではその幸福感の高さの理由として、次のような理由が挙げられていた。職の流動性が高い(採用・解雇・転職が容易)、世界で最も最低賃金が高い、世界で最も

税金が高い、世界で最も貧富の差が少ない、単一民族(90%がデニッシュ)で人口550万人、国民の多数(80%)がプロテスタント。

550万人というのは国として機能するには適度なサイズで、民族や宗教の均質性から意見もまとまりやすく、隣の人も幸せで、セーフティネットも完備されていれば、たとえ税金は高くても、未来への不安から貯蓄に励む必要もなく、よって幸せなのだという仮説だ。筆者もこの説には納得感を持っている。

中国に戻って考えてみよう。デンマークの幸福形成要素は、ことごとく当てはまらないようである。13億人というのは国として機能するには奇跡的に大きなサイズであり、多数の少数民族を擁し、貧富の差は激しく、セーフティネットは完備されているとは言い難い。しかし、右肩上がりの経済を抜きに考えても、人々はある意味幸せそうだ。その理由は何なのだろう。筆者の推測では、適度なサイズのデンマークとは対照的に、常に膨大な人の渦の中にいると、自分に必要な人脈以外の人々、いわゆる「世間」などというものは気にならなくなるからではないだろうか。世間や不特定多数の人々を気にしなければ、他人との比較も生まれず、よって比較に基づく幸福度の確認も不要になるのではないかと推測する。

### 衰退する文明発祥の地

文明発祥の地であり、蒼い海と白壁に囲まれた美しい島を持つ、ギリシャは好きな国のひとつだ。十数年前期待に胸を膨らませてその地を訪れた時、その後進国ぶりに驚いた記憶がある。文明発祥の地としての人々の誇りは高いのだが、どうも実態が伴わずに、世界からはスッポリと取り残されていた印象だった。アクロポリスの丘などの場所をそのすぐ近くで人々に尋ねても、皆よくわからないといった様子。それでも尋ねられたら「わからない」と

はけっして言わないのがギリシャ人気質なのか、皆が思い思いの方角を示して教えてくれる。結局どれも正しくないのなら、いっそ「わからない」と言ってくれたほうがありがたいのだが。ギリシャ滞在自体は素晴らしく、楽しい体験だったのだが、国としてこういう道を歩んではいけないという思いを強くして帰途についた。成長や発展の息吹きを感じることができず、過去に生きている街という印象が強く残った。

そんな経験から、十数年、ギリシャ経済は危機に陥ってしまった。とても残念ではあるのだが、感想としては「やっぱり、あれじゃそうだよなあ…」という思いついてこない。危機は突然訪れたのではなく、じわりじわりと衰退に向かっていたのである。

### そして、日本は

名目GDPベースでは、日本の成長はこの15年ほど止まっている。その一方で、アメリカ、EU、中国をはじめとする新興国のGDPは伸びている。世界全体では、先進国の人口など少数に過ぎない。デンマークの例にならえば、世界中で隣の人も幸せと思える史上初の状況の実現が、近づいているのではないかと思う。外に目を向ければ、発展を遂げている国々の中には、日本の技術やノウハウ、緻密さなどを求めている国がたくさんある。日本の前途はけっして暗いものではないと感じる。日本がギリシャと同じ道を歩むことなく、そしてむやみに周囲の目を気にすることなく、日本の閉塞感が底を打って、幸せな右肩上がりに向かうことを願っている。

### POINT

- 1 「今日より明日がよくなる」が幸せな今日をもたらす
- 2 「隣の人も幸せ」という幸福感
- 3 右肩上がりへの分岐点

佐藤靖子 [さとう・やすこ]  
ドルチェ・マーケティング(株)代表取締役。経営コンサルタント大前研一氏に認められ、(株)ビジネス・ブレークスルー(代表取締役社長:大前研一)の出資を受ける。「マーケティングは世の中をいかに変える仕事」という理念のもと、コンサルティングから販促ツール制作、海外進出まで、経営視点での結果につながるマーケティング活動を総合プロデュース。費用対効果1000%以上の実績や、全日本DM大賞、DMA米国ダイレクトマーケティング協会主催DMA国際エコー賞などの国内外受賞歴多数。オーストラリア・ボンド大学MBA。